

令和7年9月29日

利根川水系渇水対策連絡協議会

(事務局：国土交通省関東地方整備局)

令和7年度 利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会(臨時)の結果について ～今夏の取水制限は回避！ダムの貯水量が平均より少ないため、引き続き状況を注視します～

9月29日に開催した令和7年度 利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会の臨時開催の結果をお知らせいたします。

1. 開催状況

日時 令和7年9月29日(月) 10:00～11:00

場所 Web会議

構成 国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構

目的 今夏の総括と今後の見込みについて意見交換をするため

2. 開催結果

別紙のとおり

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 埼玉県政記者クラブ 東京都庁記者クラブ
千葉県政記者会 茨城県政記者クラブ 栃木県政記者クラブ 刀水クラブ・テレビ記者会 水資源記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 河川部 電話：048-601-3151(代表) FAX：048-600-1379

河川環境課 課長 藤原(ふじわら)(内線：3651)

建設専門官 田島(たじま)(内線：3652)

水政課 水政調整官 森岡(もりおか)(内線：3515)

課長 井上(いのうえ)(内線：3551)

課長補佐 菅間(すがま)(内線：3557)

現状と今後の対応

(1) 現状

- ・ 今冬は降雪が多く、雪解けによるダムへの流入の増加により、利根川9ダムは貯水率100%の状態です。洪水期を迎えました。
- ・ 栗橋地点(埼玉県久喜市栗橋地先)上流域の平均降水量は、6月以降、過去77年間(昭和23年～令和6年)の平均値を下回っており、特に8月は平均値207mm に対して98mmと約半分であり、雨の少ない状況でした。
- ・ 利根川9ダムでは、下流の水利用等のために必要な水量をダムから放流し、特に7月下旬から9月上旬にかけて多くの補給を行った結果、貯水量が急激に低下し、9月5日0時で今夏の最低貯水量である1億4,594万 m³、貯水率約40%となりました。その後、台風15号や前線等による降雨の影響を受け貯水量が回復し、9月26日0時の利根川9ダムの貯水量は1億9,593万 m³、貯水率約53%になっています。

(2) 今後の見通し

- ・ 気象庁が9月25日に発表した向こう1ヶ月の見通しでは、降水量は「多い」と「平年並」の確率が合わせて70%となっているものの、気温については「高い」確率が80%であり、引き続き気温が高い状態が続く予報になっています。
- ・ 今後、利根川流域では、10月に入り農業用水の水需要が減少し、ダムからの放流が少なくなり、貯水量の回復が見込まれます。

(3) 今後の対応

- ・ 利根川9ダムの夏期制限容量に対する貯水率は50%を上回り、10月以降は農業用水の需要の減少などにより、今後はダム貯水量の回復が期待できることから、今夏の取水制限の実施は回避されたことを確認しました。ただし、利根川9ダムの貯水量は依然として平均値を下回っているため、引き続き状況を注視するとともに、関係機関との情報共有を行ってまいります。
- ・ 今後は、都市用水の水利用を十分に考慮するとともに、次の水需要に備えた貯留を行い、限りある水資源の有効活用のため、上流ダムと下流施設を連携したきめ細やかな運用を行ってまいります。
- ・ ダム群の貯水量や降水量などの状況については、引き続き、積極的に情報提供を行ってまいります。
- ・ 利根川水系渇水対策連絡協議会としては、今後も利根川に関係する水利用者の皆さまに対し、水を大切に使うよう呼びかけていくこととします。

利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて



ハッ場あがつま湖（令和7年9月25日撮影）

令和7年9月29日

関東地方整備局

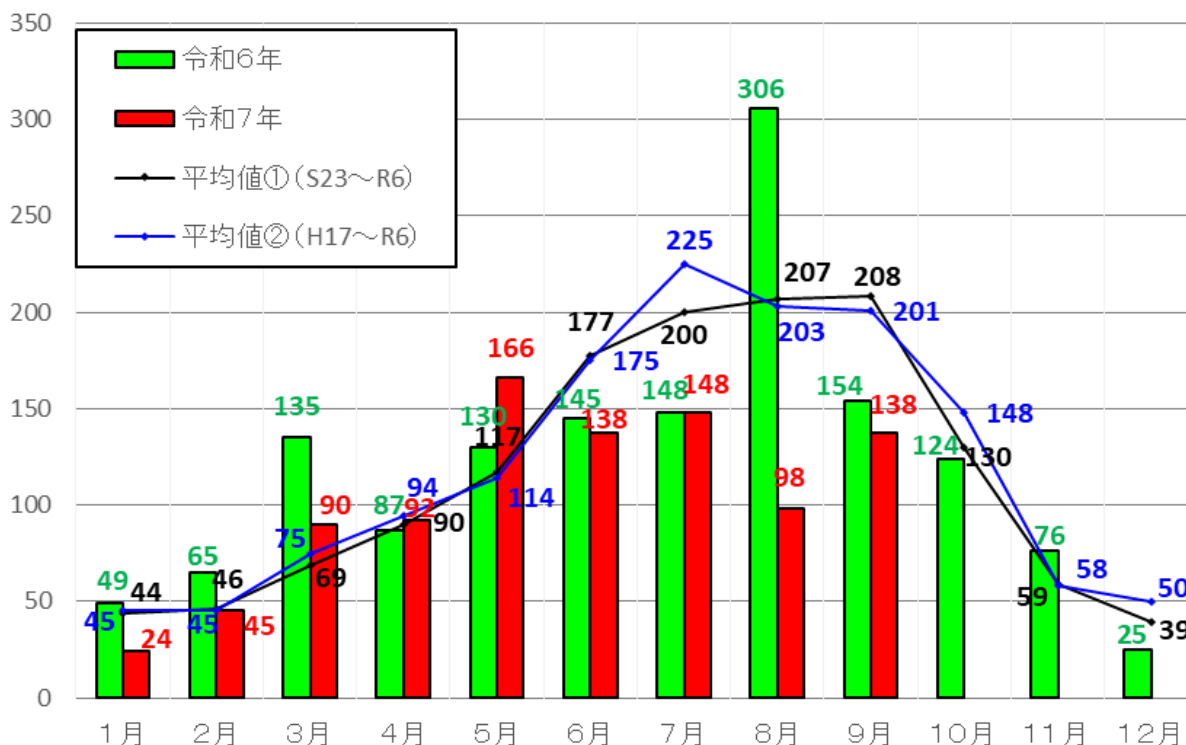
1. 利根川上流9ダム等の現状

(1) 利根川

1) 栗橋地点上流域平均降水量の状況（令和7年9月26日0時までの降水量）

栗橋地点（埼玉県久喜市栗橋地先）上流域における7月の降水量は、平均値200mm（昭和23年～令和6年の77年間の平均）の約7割の148mmであり、8月は平均値の約半分の98mm、9月は26日時点で平均値の約7割の138mmとなっています。

（図－1、表－1 参照）



図－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和7年9月26日0時まで）

表－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和7年9月26日0時まで）

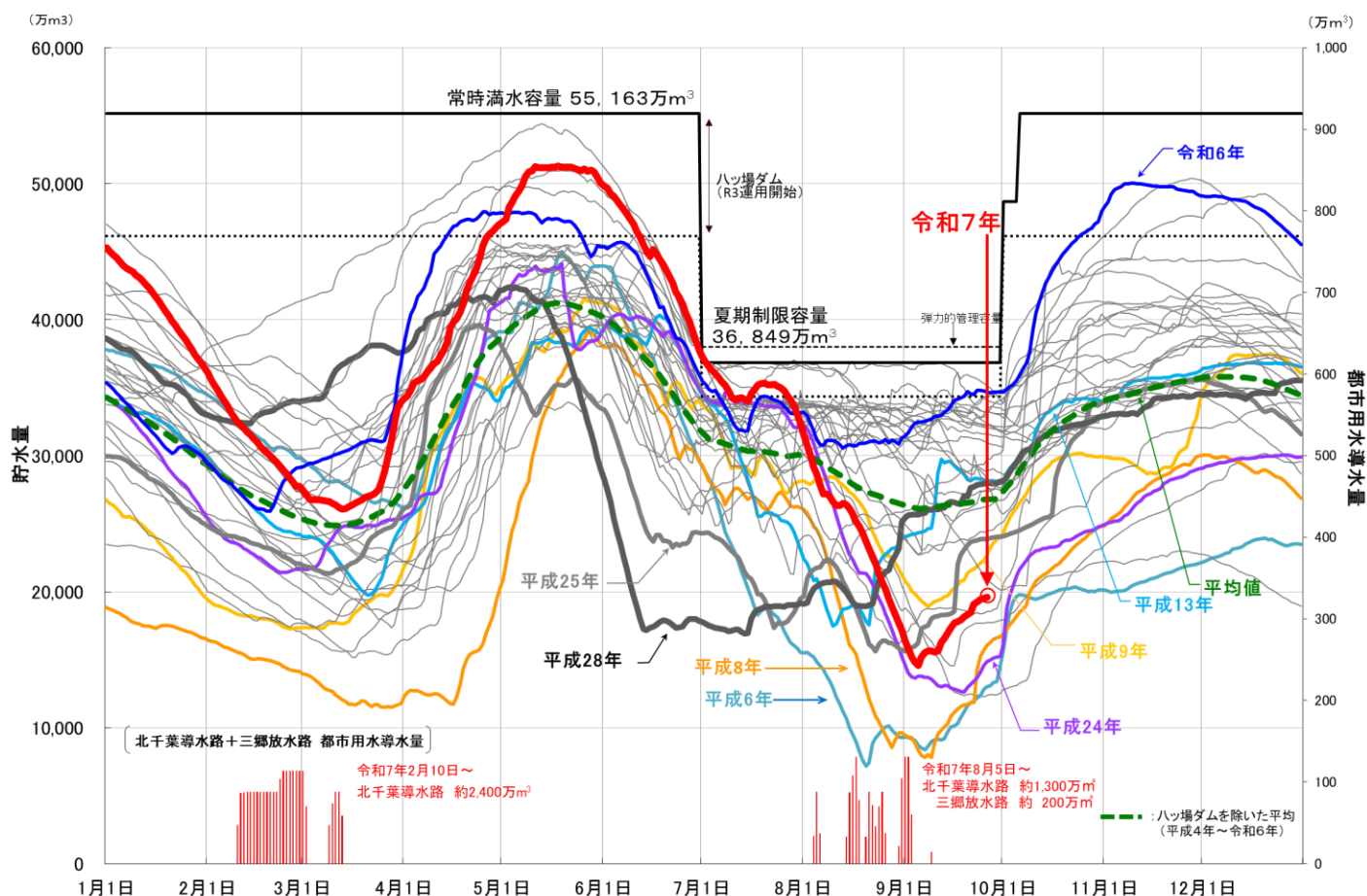
単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘 要
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	利根川夏渇水
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬・夏渇水
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬渇水
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569	利根川夏渇水
平成24年	43	57	115	98	206	192	190	87	221	85	55	47	1,395	〃
平成25年	43	38	20	134	46	168	152	153	244	224	24	48	1,294	〃
平成28年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431	〃
令和4年	28	47	58	127	142	134	282	118	217	65	70	36	1,324	-
令和5年	22	26	86	64	138	270	90	193	154	102	48	23	1,216	-
令和6年	49	65	135	87	130	145	148	306	154	124	76	25	1,444	-
平均値① (S23~R6)	44	46	69	90	117	177	200	207	208	130	59	39	1,386	-
平均値② (H17~R6)	45	45	75	94	114	175	225	203	201	148	58	50	1,433	-
令和7年	24	45	90	92	166	138	148	98	138				938	-
平均値①に対する割合	55%	98%	130%	102%	142%	78%	74%	47%	66%				68%	-

注）平均値①は各年に対してデータが存在する期間（77ヶ年）を平均したもの
平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの
黄色塗りは取水制限実施月（一部緩和含む）

2) 利根川上流 9 ダムの貯水状況等（令和 7 年 9 月 26 日 0 時現在）

利根川上流 9 ダムでは、7 月及び 8 月の少雨の影響による河川流量の低減に伴い、ダムからの補給量が増加しました。9 月に入り、台風 15 号や前線等による降雨の影響を受け貯水量が回復し、令和 7 年 9 月 26 日 0 時時点の合計貯水量は 1 億 9,593 万 m³（貯水率約 53%）になっています。

（図－2、表－2 参照）



図－2 利根川上流 9 ダム貯水容量図（令和 7 年 9 月 26 日 0 時現在）

表－2 利根川上流 9 ダム貯水量（令和 7 年 9 月 26 日 0 時現在）

ダム名	有効容量 (万 m ³)	貯水量 (万 m ³)	貯水率 (%)
矢木沢ダム	11,550	4,102	36%
奈良俣ダム	7,439	2,127	29%
藤原ダム	1,230	1,344	100%
相俣ダム	1,060	1,009	95%
藺原ダム	300	264	88%
ハッ場ダム	2,500	1,824	73%
下久保ダム	8,500	5,044	59%
草木ダム	3,050	3,112	100%
渡良瀬貯水池	1,220	767	63%
9 ダム合計	36,849	19,593	53%
8 ダム合計の平均値 (平成 4 年～令和 6 年)		26,809	(平均値に対して 73%)

※有効容量は夏期制限容量（洪水期の利水容量）であり、貯水率は夏期制限容量に対する貯水量の割合

※過去の貯水量平均値は、ハッ場ダム貯水量を含めず 8 ダムの合計貯水量で計算したもの

3) 北千葉導水路、三郷放水路の運用状況

7月下旬から河川の流量減少に伴い都市用水を主とした用水確保のための補給が必要となり、ダム補給が厳しくなることが心配されたことから、上流ダム群の貯水量を温存するため、下流施設を活用することとし、令和7年8月5日より北千葉導水路及び三郷放水路により利根川下流部及び中川から江戸川への導水を行いました。

令和7年8月5日からの合計導水量は令和7年9月26日0時までで、約1,500万 m^3 (21日間)となっています。(図-2 参照)

4) 利根川上流9ダムの今後の貯水状況

利根川9ダムの貯水量は9月上旬より増加したことから、夏期制限容量に対する貯水率は50%を上回り、10月1日から農業用水の取水量が大きく減少することから、貯水量は増加に転じる変化点を迎えることとなり、今夏の取水制限の実施は回避されたものと考えられます。(図-3 参照)

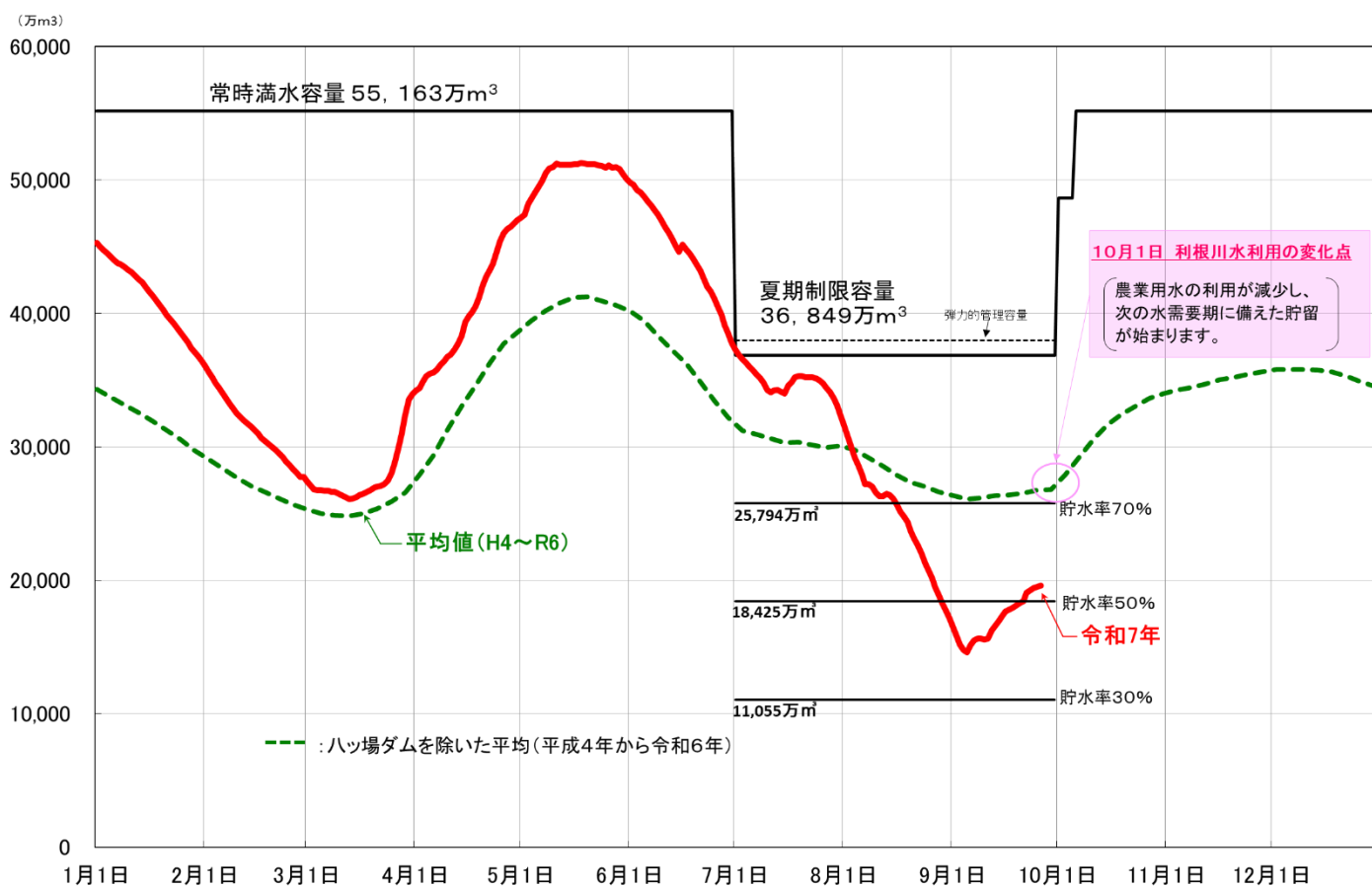


図-3 利根川9ダムの今後の貯水量

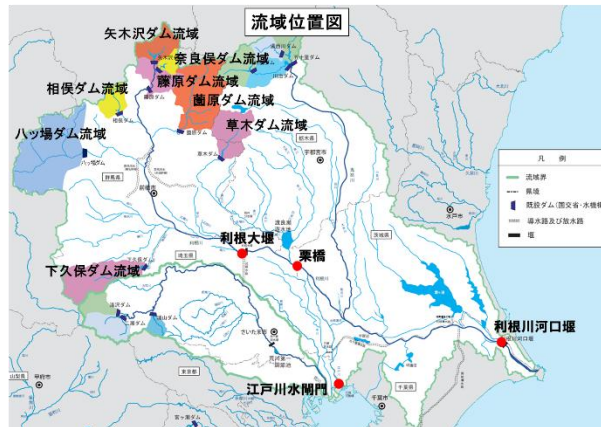
5) 今夏における9ダム運用の効果（ハッ場ダム）

今夏は雷雨等による局地的な降雨が多い中で、ダム管理においては、操作をきめ細かく行い、貯水量の節約に努めました。上流ダムで最も大きい集水面積を有するハッ場ダムには、比較的多くの降雨があり（渡良瀬貯水池を除く8ダムの中で3番目）、ハッ場ダムの完成により、広大な流域に降った雨を貯留することで有効利用できたと考えられます。

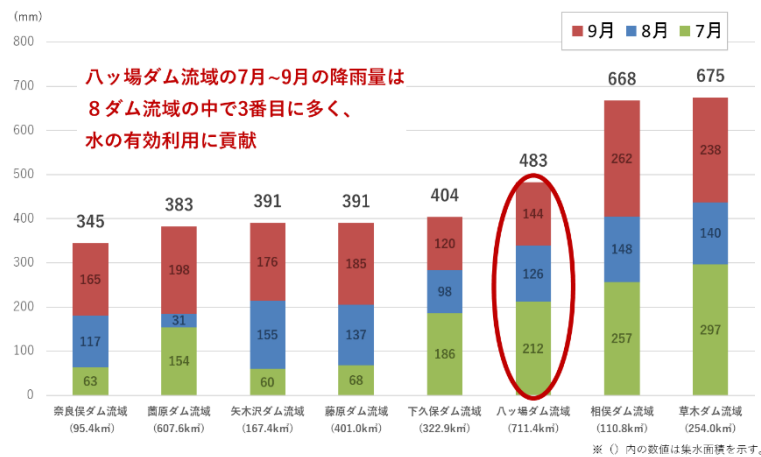
（図－4、5 参照）

平成24年は、9月に取水制限を実施しましたが、仮に現在も当時と同じハッ場ダムが無い8ダムでの運用であった場合、貯水量は平成24年当時の水準まで減少していた可能性が高く、ハッ場ダムの完成により取水制限を回避できたと考えられます。

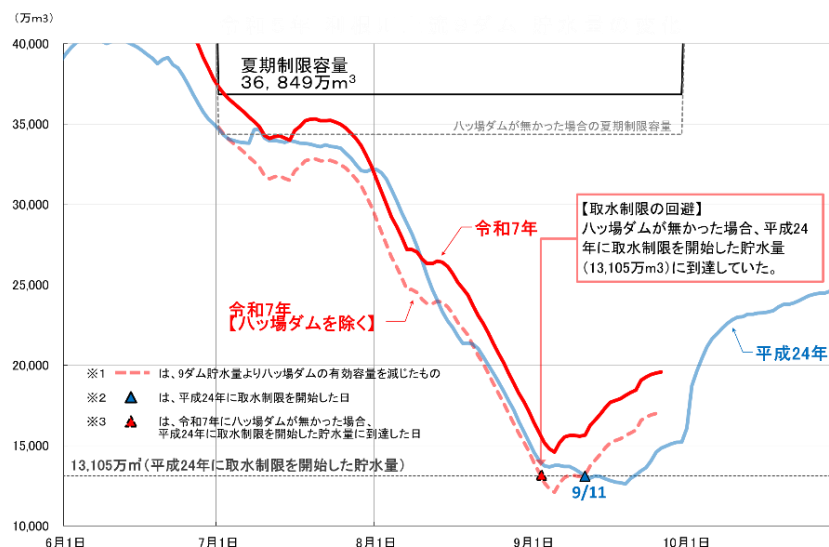
（図－6 参照）



図－4 ダム流域位置図



図－5 ダム流域別降雨量



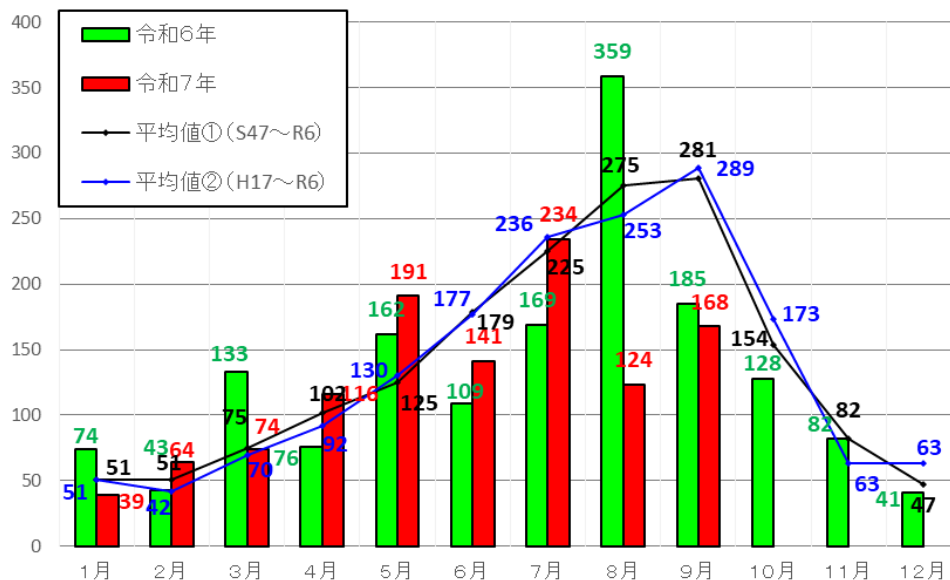
図－6 ハッ場ダムが無かった場合の貯水量の変化

(2) 鬼怒川

1) 佐貫地点上流域平均降水量の状況（令和7年9月26日0時までの降水量）

佐貫地点（栃木県塩谷町佐貫地先）上流域における7月の降水量は、平均値 225mm（昭和47年～令和6年の53年間の平均）と同程度の234mmであり、8月は平均値275mmの約半分の124mm、9月は26日時点で平均値281mmの約6割の168mmとなっています。

（図－7、表－3 参照）



図－7 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和7年9月26日0時まで）

表－3 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量[mm]（令和7年9月26日0時まで）

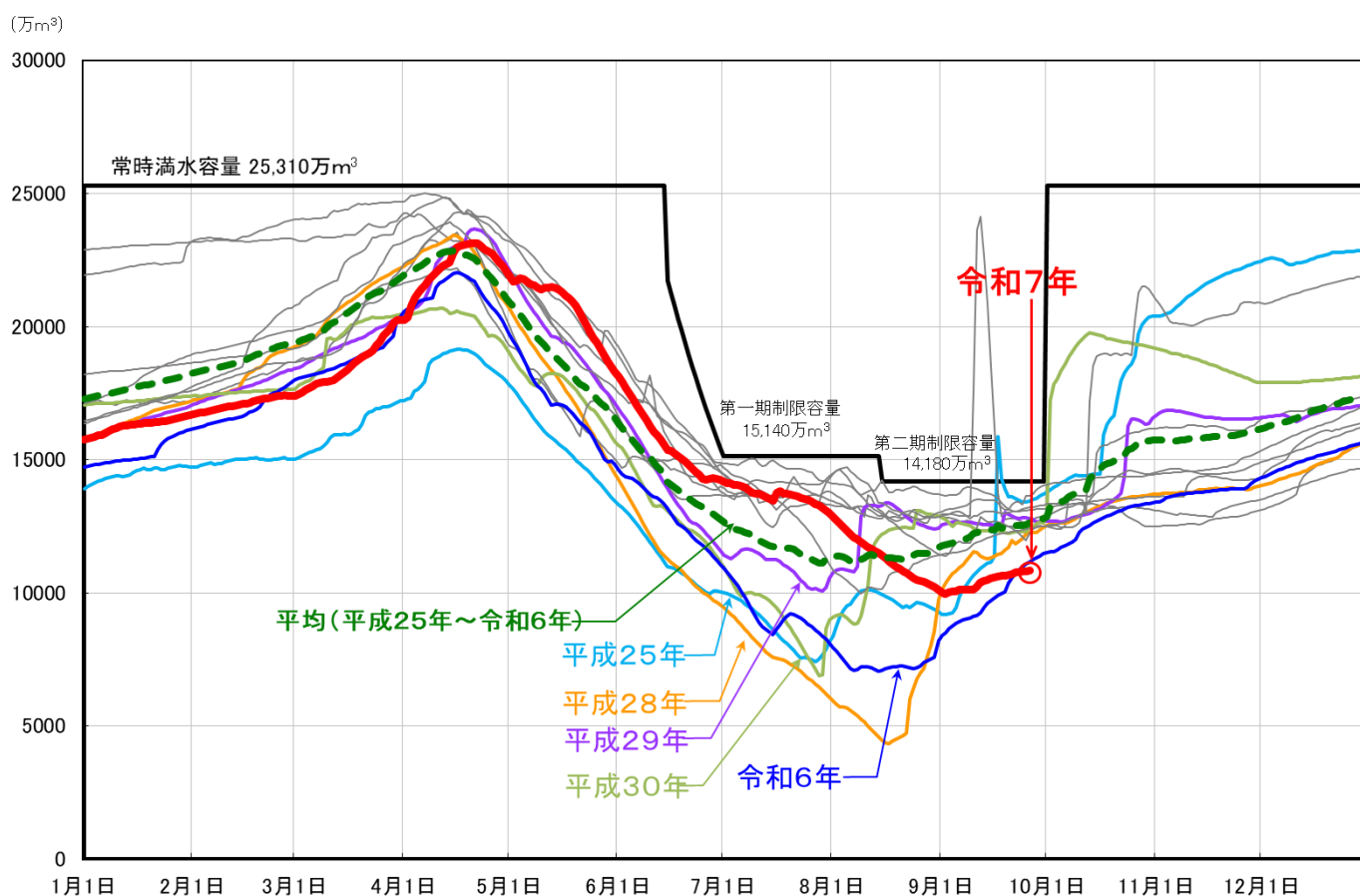
単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	21	34	127	21	121	134	186	156	321	121	38	21	1,301	
平成5年	91	84	20	17	89	226	321	307	280	112	209	52	1,808	
平成6年	15	118	77	21	126	103	159	218	551	122	25	48	1,583	利根川・鬼怒川夏渇水
平成7年	62	14	170	99	216	337	167	113	177	57	65	68	1,545	
平成8年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140	利根川冬渇水 利根川・鬼怒川夏渇水
平成13年	56	13	34	13	116	185	147	484	610	225	62	35	1,980	利根川・鬼怒川夏渇水
平成24年	40	47	101	111	314	276	227	109	354	113	71	75	1,838	利根川夏渇水
平成25年	45	35	14	147	46	171	177	172	411	301	29	66	1,614	鬼怒川夏渇水
平成28年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392	鬼怒川夏渇水
平成29年	91	45	38	74	93	95	242	337	200	392	18	62	1,687	利根川・鬼怒川夏渇水
平成30年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653	鬼怒川夏渇水
令和4年	56	53	61	115	207	145	296	162	239	77	62	48	1,521	—
令和5年	30	26	63	68	150	248	87	321	211	116	87	13	1,420	—
令和6年	74	43	133	76	162	109	169	359	185	128	82	41	1,561	鬼怒川夏渇水
平均値① (S47~R6)	51	51	75	102	125	179	225	275	281	154	82	47	1,647	
平均値② (H17~R6)	51	42	70	92	130	177	236	253	289	173	63	63	1,639	
令和7年	39	64	74	116	191	141	234	124	168				1,151	—
平均値①に対する割合 (%)	76%	125%	99%	114%	153%	79%	104%	45%	60%				70	—

注) 平均値①は各年に対してデータが存在する期間（53ヶ年）を平均したもの
 平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの
 黄色塗りは取水制限実施月（一部緩和含む）

2) 鬼怒川上流 4 ダムの貯水状況等（令和 7 年 9 月 26 日 0 時現在）

鬼怒川上流 4 ダムでは、8 月の少雨の影響による河川流量の低減に伴い、ダムからの補給量が増加しましたが、9 月に入り、台風 15 号や前線等に伴う降雨の影響により貯水量は増加し、令和 7 年 9 月 26 日 0 時時点の合計貯水量は 1 億 0,833 万 m³（貯水率約 76%）となっています。

（図－8、表－4 参照）



図－8 鬼怒川上流 4 ダム貯水容量図（令和 7 年 9 月 26 日 0 時現在）

表－4 鬼怒川上流 4 ダム貯水量（令和 7 年 9 月 26 日 0 時現在）

ダム名	有効容量 (万 m ³)	貯水量 (万 m ³)	貯水率 (%)
五十里ダム	1,120	406	36%
川俣ダム	4,860	4,365	90%
川治ダム	4,000	2,908	73%
湯西川ダム	4,200	3,154	75%
4 ダム合計	14,180	10,833	76%
4 ダム合計の平均値 (平成 25 年～令和 6 年)		12,640	(平均値に対して 86%)

※有効容量は夏期制限容量（洪水期の利水容量）であり、貯水率は夏期制限容量に対する貯水量の割合

(3) 荒川水系

1) 秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（令和7年9月26日0時までの降水量）

秋ヶ瀬（埼玉県志木市宗岡地先）地点上流域における7月の降水量は、平均値186mm（昭和40年～令和6年の60年間の平均）の約7割である138mmであり、8月は平均値を大幅に下回る48mm、9月は26日時点で平均値229mmの約8割である185mmとなっています。

(図-9、表-5 参照)

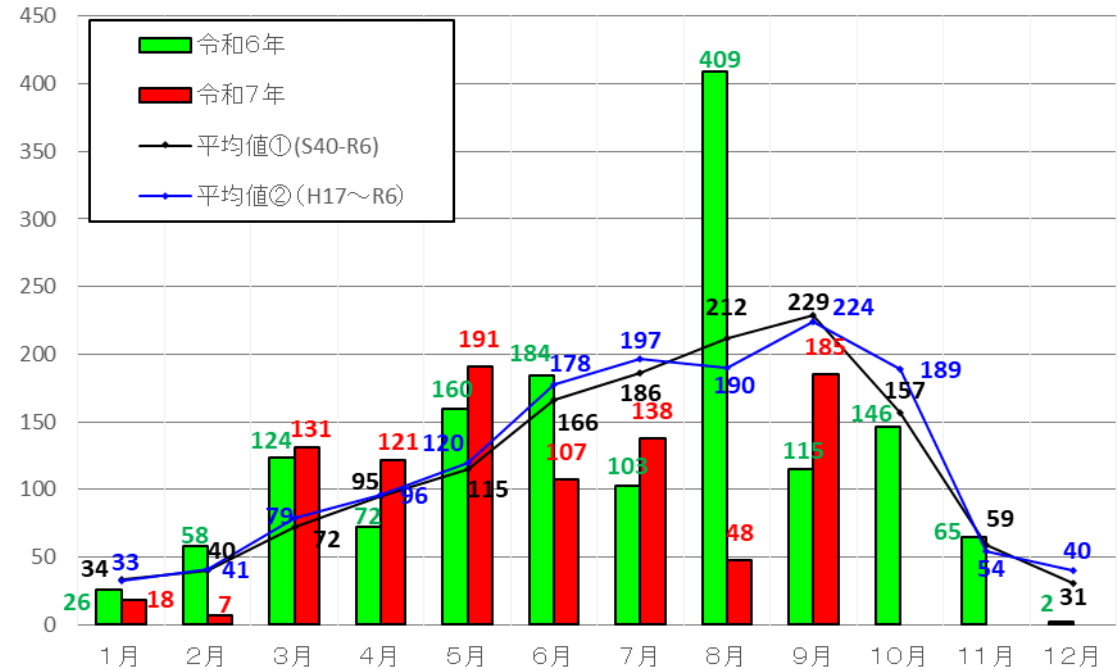


図-9 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和7年9月26日0時まで）

表-5 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和7年9月26日0時まで）

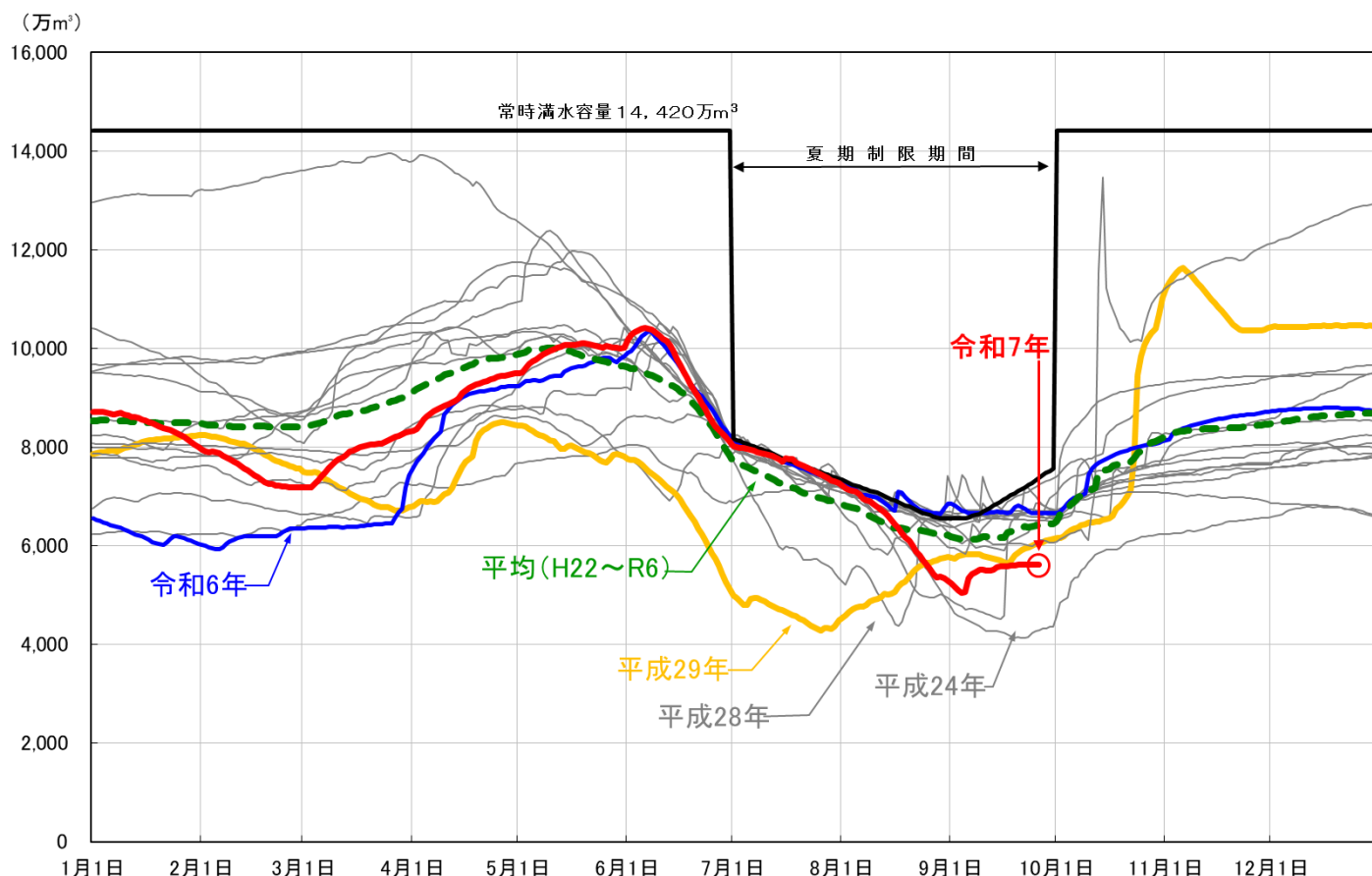
単位(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	利根川・荒川夏渇水
平成5年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1,464	荒川夏渇水
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	利根川・荒川夏渇水
平成7年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1,135	荒川夏渇水
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川・荒川冬夏渇水
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	利根川夏渇水
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335	利根川夏渇水
平成25年	35	18	37	152	36	172	94	77	238	327	17	46	1,249	利根川夏渇水
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414	利根川夏渇水
平成29年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,437	荒川夏渇水
令和4年	7	26	65	162	110	159	278	123	233	109	64	25	1,361	—
令和5年	6	25	86	39	142	296	47	173	173	67	47	9	1,110	—
令和6年	26	58	124	72	160	184	103	409	115	146	65	2	1,464	—
平均値①(S40-R6)	34	40	72	95	115	166	186	212	229	157	59	31	1,396	—
平均値②(H17~R6)	33	41	79	96	120	178	197	190	224	189	54	40	1,441	—
令和7年	18	7	131	121	191	107	138	48	185				947	—
平均値に対する割合(%)	53	18	182	128	166	65	74	23	81				68	—

注) 平均値①は各年に対してデータが存在する期間(60ヶ年)を平均したもの
平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの
黄色塗りは取水制限実施月(一部緩和含む)

2) 荒川4ダムの貯水状況等（令和7年9月26日0時現在）

荒川4ダムでは、少雨の影響による河川流量の低減に伴い、8月上旬よりダムからの補給量が増加しましたが、9月に入り、台風15号や前線等に伴う降雨の影響により貯水量は増加し、令和7年9月26日0時時点の合計貯水量は、5,625万 m^3 （貯水率76%）となっています。

（図－10、表－6 参照）



図－10 荒川4ダム貯水量図（令和7年9月26日0時現在）

表－6 荒川4ダム貯水量（令和7年9月26日0時現在）

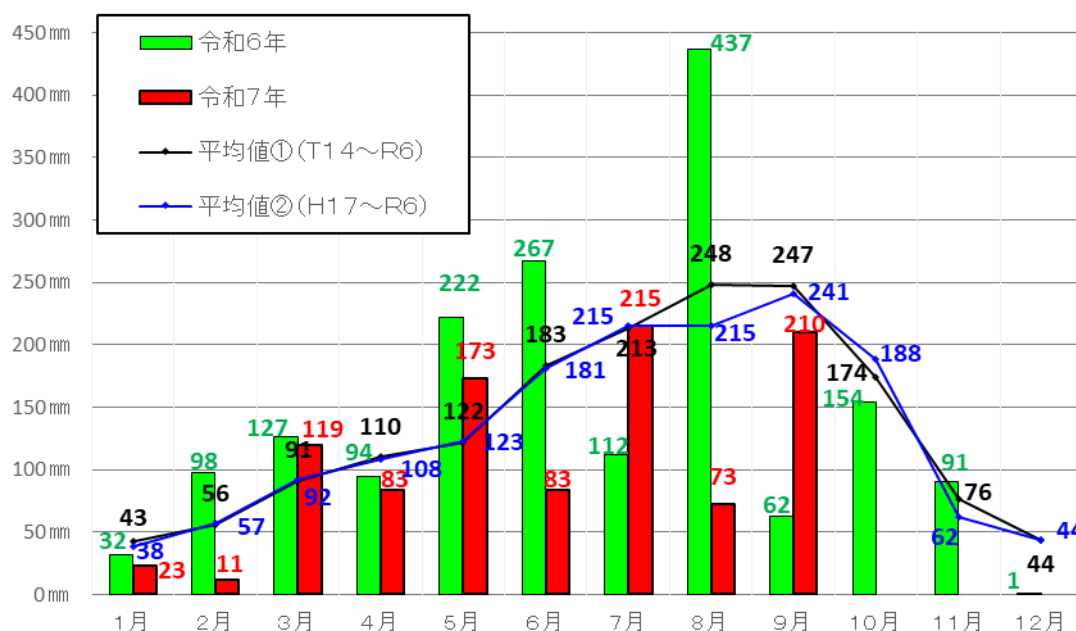
ダム名	有効容量 (万 m^3)	貯水量 (万 m^3)	貯水率 (%)
二瀬ダム	811	31	4%
滝沢ダム	2,500	1,890	76%
浦山ダム	3,300	2,857	87%
荒川貯水池	760	847	100%
4ダム合計	7,371	5,625	76%
4ダム合計の平均値 (平成22年～令和6年)		6,418	(平均値に対して88%)

※有効容量は夏期制限容量（洪水期の利水容量）であり、貯水率は夏期制限容量に対する貯水量の割合

(4) 多摩川水系

1) 小河内ダム地点上流域平均降水量の状況（令和7年9月25日9時までの降水量）

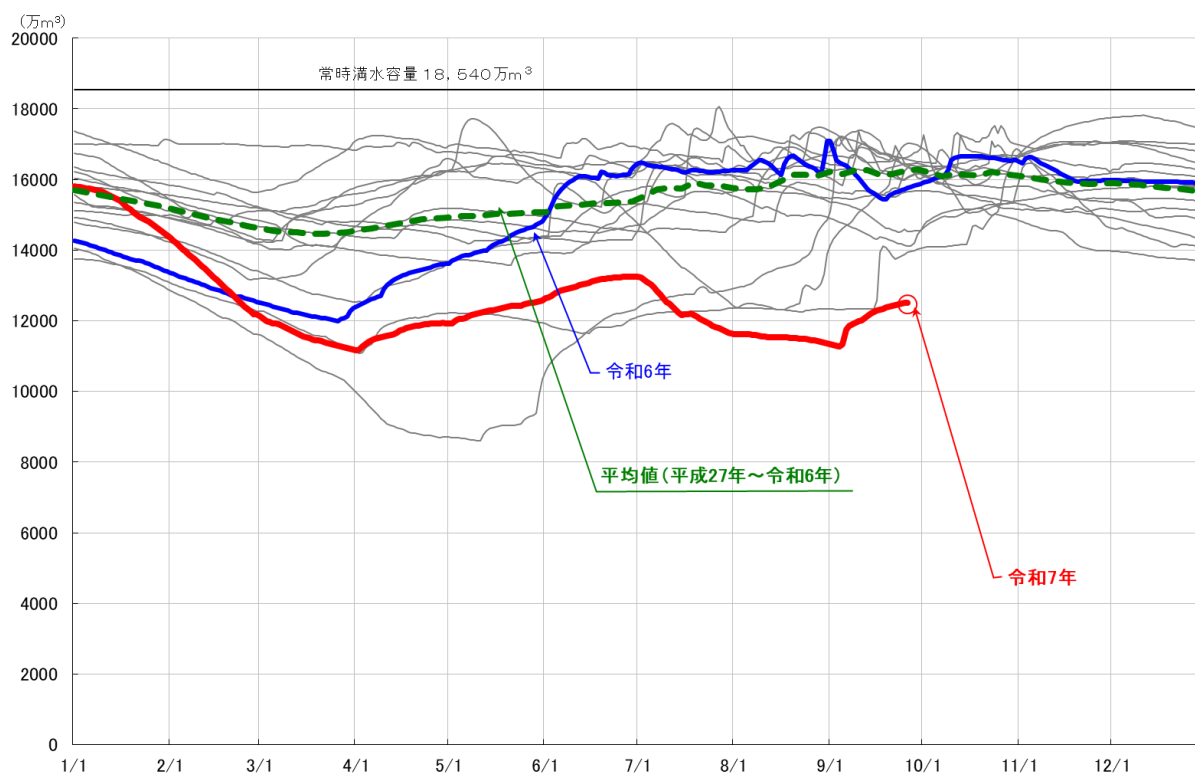
小河内ダム地点上流域における7月の降水量は、平均値 213mm（大正14年～令和6年の100年間の平均）と同程度の215 mmでした。8月は平均値248mmを大幅に下回る73mm、9月は25日時点で平均値247mmの約9割である210mmとなっています。（図－11 参照）



図－11 多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量（令和7年9月25日9時までの降水量）

2) 小河内ダムの貯水状況

令和7年9月26日7時現在の貯水量は、1億2,518万 m³ となっています。（図－12 参照）



図－12 多摩川小河内ダム貯水容量図（令和7年9月26日7時現在）

2. 今後の見通し

(1) 気象予報

令和7年9月25日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(令和7年9月27日から令和7年10月26日までの見通し)によると、向こう1か月の降水量は「多い」と「平年並」の確率が合わせて70%となっています。

令和7年9月22日気象庁発表の3か月予報(令和7年10月から令和7年12月までの見通し)によると、向こう3か月の降水量は「多い」と「平年並」の確率が合わせて70%となっています。

1か月予報（令和7年9月25日発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 09/27～10/26	10 10 80
		1週目 09/27～10/03	10 10 80
		2週目 10/04～10/10	10 10 80
		3～4週目 10/11～10/24	10 20 70
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 09/27～10/26	30 30 40
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 09/27～10/26	40 30 30

■ 低い(少ない)
 ■ 平年並
 ■ 高い(多い)

3か月予報（令和7年9月22日発表）

気温、降水量の各階級の確率（％）			
気温	関東甲信地方	10月～12月	20 30 50
		10月	10 30 60
		11月	20 40 40
		12月	40 40 20
降水量	関東甲信地方	10月～12月	30 30 40
		10月	20 40 40
		11月	30 30 40
		12月	40 40 20

■ 低い(少ない)
 ■ 平年並
 ■ 高い(多い)

首都圏の主要な河川と水資源開発施設



利根川上流9ダムの貯水状況

令和7年9月26日撮影



矢木沢ダム

令和7年9月26日撮影



奈良俣ダム

令和7年9月26日撮影



藤原ダム

利根川上流9ダムの貯水状況

令和7年9月26日撮影



相俣ダム

令和7年9月26日撮影



葦原ダム

令和7年9月26日撮影



ハツ場ダム

利根川上流9ダムの貯水状況

令和7年9月26日撮影



下久保ダム

令和7年9月26日撮影



草木ダム

令和7年9月26日撮影



渡良瀬貯水池

鬼怒川上流4ダムの貯水状況

令和7年9月24日撮影



五十里ダム

令和7年9月25日撮影



川俣ダム

令和7年9月24日撮影



川治ダム

令和7年9月24日撮影



湯西川ダム